

周作クラブ会報

(第90号)
2023年2月25日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

- 1面 生誕百年・主な行事
- 2面 加賀会長との思い出
- 3面 新年会
- 4面 遠藤周作文学館便り
- 5面 周作クラブ長崎便り
- 6面 連載・樹座の30年
- 7面 会員寄稿
- 8面 お知らせ欄

生誕百年・主な行事

3月末からの新企画展タイトルは

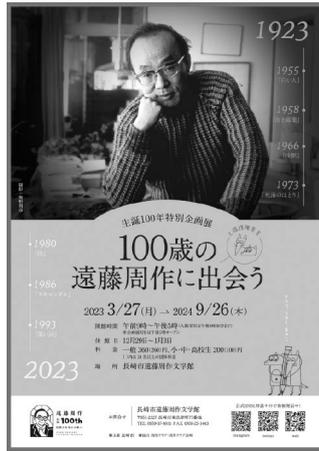
「100歳の遠藤周作に出会う」

長崎市での記念行事

今年で生誕百年を迎える遠藤周作に関する記念事業の概要が、昨年暮れ(12月26日)、長崎市の定例会見で発表された。遠藤文学のテーマと、人間・遠藤(狐狸庵)をイメージしたキャッチコピーは、「沈黙と好奇心の旅へ」。

現在、市では記念の出版物および冊子を編纂中だが、今年のメインとなる催事は何と云っても遠藤周作の誕生日3月27日(月)から開催される新企画展「100歳の遠藤周作に出会う」(遠藤周作文学館・東出津町)だろう。遠藤没後に発見された原稿も含めた、かつてない展示が期待される(展示は2024年9月26日まで)。

記念展開催に先立ち、長崎市では記念のイベントも開催する。3月25日(土)のテレビドラマ上映(「夫の宿題」原作・遠藤順子/1999年放送)の上映と、主演女優・竹下景子さんによるトークショーで、



会場は長崎ブリックホール(茂里町)。※右記(企画展とイベント)に関する問合せは、長崎市遠藤周作文学館まで(連絡先は本報4ページ参照)。

また、同じ3月27日の午後2時半からは生誕百年を記念した「遠藤周作とすべてのキリストンのためのミサ」が、世界遺産に登録された外海のカトリック出津教会(世界遺産構成資産内教会)で行われる。長崎

■社報 加賀乙彦・周作クラブ会長

すでに新聞等で報道されたように、当クラブ会長の加賀乙彦氏が去る1月12日、老衰のために亡くなりました。享年93歳。本名は小木(こぎ)貞孝。東京都出身、東京大学医学部を卒業し、東京拘置所医務部技官などを経て1967年作家デビュー。『宣言』(日本文学大賞)、『湿原』(大仏次郎賞)など多くの話題作を発表する一方、1987年には遠藤周作を代父としてカトリック受洗。2004年からは周作クラブ会長に就任しました。芸術院会員、文化功労者(2011)。現在は「加賀乙彦長篇小説全集」が刊行中。19年におよび周作クラブへのご指導ご助力に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。(編集部)

※2ページに関連記事あり。

※念のため、この1年間の関連イベントを、周作クラブ行事と合わせて以下に掲載する。

2023年・主な遠藤関連イベント

1月28日(土)	周作クラブ新年会(オンライン)ゲストの音楽座・俳優さんと「遠藤作品とミュージカル」
2月18日(土)	遠藤周作文学館・文学講座『わたしが・棄てた・女』を読む 講師/福田耕介さん ——以上は既に終了——
3月25日(土)	TVドラマ「夫の宿題」上映会&主演・竹下景子さんによるトークショー (長崎ブリックホール)
3月27日(月)	遠藤周作誕生日生誕100年企画展「100歳の遠藤周作に出会う」(遠藤周作文学館) 午後1時～ 一般公開 午後2時30分～ 記念ミサ「生誕100年・遠藤周作とすべてのキリストンのためのミサ」カトリック出津教会 ※参加には申込が必要(上記参照)
6月10日(土)、11日(日)	音楽座ミュージカル「泣かないで」(東京・町田市民ホール)
7月15日(土)～10月1日(日)	軽井沢高原文庫「遠藤周作生誕100年展」&記念イベント
9月(日付未定)	遠藤周作文学館・生誕100年記念講座
9月30日(土)	「周作忌」(予定。命日は29日)会場/慶應義塾大学三田校舎内 三田文学会と共催
10月(日付未定)	「遠藤周作を偲ぶ一日」(海外・遠藤周作文学館)
10月21日(土)～12月24日(日)(予定)	町田市民文学館ことばらんど「生誕100年記念遠藤周作展」(仮称)
11月頃	周作クラブ「オンライン・生誕100年文学セミナー」

での記念ミサはこれまでにも浦上教会(2000年)、大浦天主堂(2006年・没後10年)でも行われ、今回で3度目となる。※ミサへ参加するには申込みが必要。希望者は「周作クラブ長崎」浜口徹さんまで、左記のEメールで。
t.hamaguchi@tkg.big.jp
その他の展示会の予定

生誕百年を記念する遠藤展は、長崎以外でも計画されている。

7月中旬からは軽井沢高原文庫(長野県北佐久郡軽井沢町長倉)で「遠藤周作生誕百年展」(仮称)ならびに記念イベントが開催予定。

※問合せ先は、☎0267・45・1175。また10月からは東京の町田市民文学館ことばらんどが「生誕100年記念遠藤周作展」(仮称)を準備中。

※問合せ先・☎042・739・3420。新刊本・新装版の出版では、3月に新潮社から次の2冊が刊行される。

◇「文豪ナビ・遠藤周作」新潮文庫、定価

800円。(新たに編まれる文庫)◇「影に対して」新潮文庫、定価649円。(昨年に出版された未発表小説の文庫化)なお、すでに1月には青春出版社より、◇「自分をどう愛するか 幸せの求め方新装版 生活編」青春文庫、定価900円(税込)も刊行された。

◇河出書房新社からの遠藤周作初期シリーズ、本年も貴重な作品を続刊の予定。また、舞台公演では、音楽座によるミュージカル「泣かないで」の再演が決定している(東京公演は6月10日、11日・町田市民ホール)。遠藤周作『わたしが・棄てた・女』を原作にしたこのミュージカルは、初演の際に作者が「自分の作品で泣いたのは初めて」と明かしたほどだが、今回はキャストも新たに上演される。

※問合せ先・音楽座ミュージカル(☎0120・503・404/Eメール info@ongakuza-musical.com)そして秋には、海外の遠藤文学館で恒例の「偲ぶ一日」が行われる。